

学習研究者による「教科に関する調査」の質的向上方策について

令和元年11月22日

教育課程研究センター学力調査課

1. 趣 旨

全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」（以下「調査」という。）における PDCA サイクルの質的な向上に資するよう、学習・思考過程に詳しい学習研究者の協力を得て、調査問題・授業アイデア例等を活用した調査研究に取り組む。

2. 調査研究の視点

- ① 児童生徒の調査への解答状況から、児童生徒が調査問題をどう認識し、どういった思考過程を経て解答に行き着いたか（調査における認知過程）についての仮説の構築と学校現場における検証を行い、その結果を活かして、より認知過程の実態を把握しやすい解答類型を提案する。
- ② ①に基づき、調査結果を踏まえて作成している「授業アイデア例」の内容面の課題を明らかにする。
- ③ 作問→調査→調査結果の分析を、次の調査問題の質向上と、「授業アイデア例」などを媒介に学校現場での授業改善へ結びつけるための方策について提言を行う。

3. 調査研究の概要

令和元年度調査の小学校国語・算数、中学校国語・数学の調査問題から各1問をピックアップし、令和2年1月～7月の間、小中学校現場において調査問題と関連資料（報告書・授業アイデア例等）の活用を通じた検証を実施する。
検証の結果は今後の調査問題等の作成にフィードバックする。

4. 調査研究の実施体制

国立教育政策研究所教育課程研究センターに調査研究協力者会議を設置し、外部の研究者（聖心女子大学益川教授、東京大学白水教授ら）の協力を得て、上記の調査研究を行う。

5. 調査研究のスケジュール

- ・令和元年12月 調査研究の準備（調査問題のピックアップ、検証校の確保）
- ・令和2年 1月 調査研究チームの設置（～令和2年12月）
検証校における調査研究の実施（～令和2年7月）
- ・令和2年 夏 専門家会議における中間報告
- ・令和2年 秋 専門家会議における最終報告

⇒ 調査問題・授業アイデア例等の質的向上へ併せて、調査問題の恒常的な質的向上のためのPDCAサイクルの在り方を提言

6. その他

- ・上記の調査研究の結果のフィードバックは令和4年度以降の調査となることから、令和3年度調査の準備過程においても学校現場における検証等を通じて学習研究者に助言を求める等、質的向上に取り組むこととする。